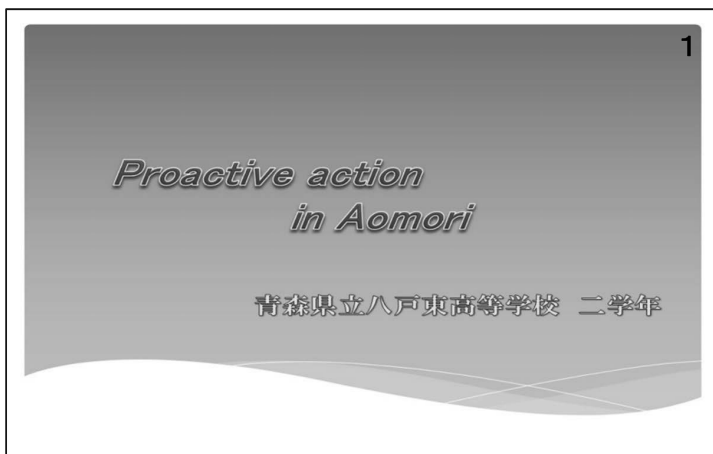


青森県立八戸東高等学校

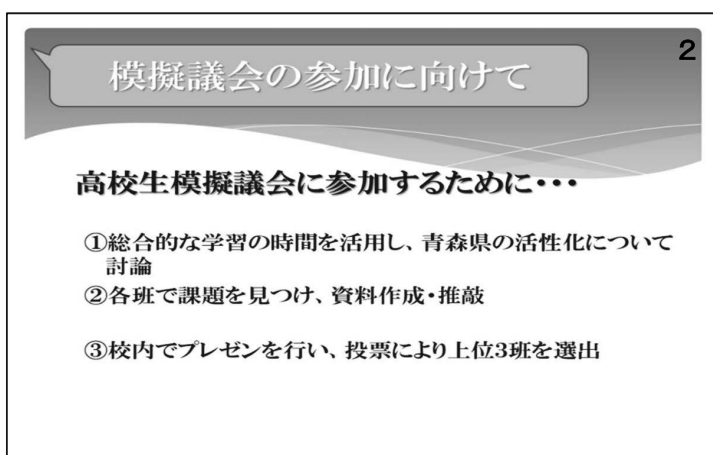
「Proactive action in Aomori」



平成30年度高校生模擬議会 青森県立八戸東高等学校 平成31年2月5日(火)

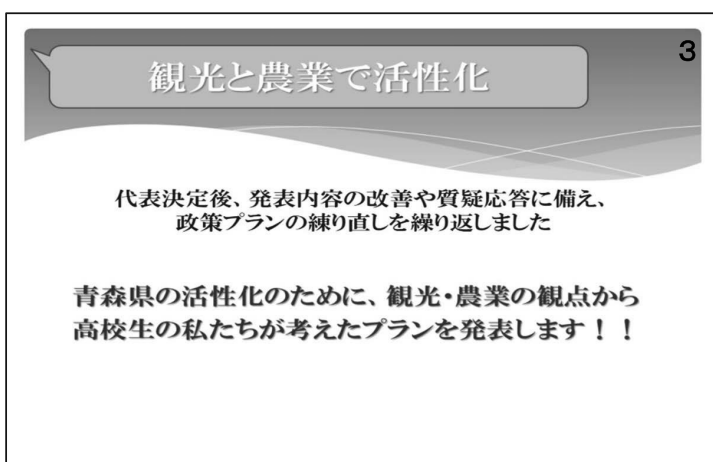


私たちの高校生模擬議会の発表テーマは「Proactive action in Aomori」です。(1)

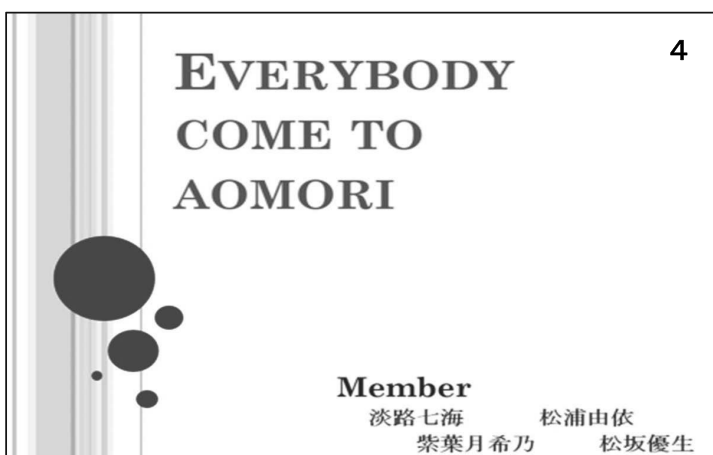


高校生模擬議会に参加するために、私たちは次のような活動をしました。

まず総合的な学習の時間を活用し、青森県の活性化について各班内で討論しました。次に各班で課題を見つけ、資料の作成や推敲を行いました。そして校内でプレゼンを行い、生徒の投票により上位3班を選出しました。(2)



代表決定後、発表内容の改善や質疑応答に備え、政策プランの練り直しを繰り返しました。青森県の活性化のために観光・農業の観点から、高校生の私たちが考えた3つのプランを発表します。なお、資料提出後に政策プランを練り直したため、お手元の資料と多少異なる点がございます。ご了承ください。(3)



私たちは観光というテーマで青森県の現状や問題点を調べてきました。(4)

5

青森県の現状

△夏には多くの観光客が訪れる
→ex.)八戸三社大祭(106万人～110万人)
青森ねぶた(のべ300万人)

しかし...

▽冬には観光客が減少している(えんぶり29万人)

↓

他県の方は「青森＝雪」イメージしかない？
冬の青森の印象が薄すぎる？

このことから、秋冬のホテルや観光系の店舗の売り上げが減少してしまうのではないかと？

私たちが着目した現状は、青森の夏は多くの観光客が訪れるが、冬の観光客が少ないということです。夏は青森のねぶた祭や八戸の三社大祭など日本を代表する祭りが数多くあります。毎年たくさんの観光客が訪れ賑わいをみせています。青森の冬はえんぶりや十和田湖冬物語などがありますね。旅行雑誌じゃらんのネット調査で行ってみたい冬の絶景スポットを調べたところ、「十和田湖冬物語」が2位に選ばれました。しかし、冬の青森は夏の青森に比べ観光客数が少ない傾向にあります。このことから秋から冬にかけてのホテルや、観光系のお店の売り上げが減少してしまうのではないかと考えました。(5)

6

政策プラン

<テーマ> 学生向け青森短期留学

<対象者> 青森と縁がない県の学生

<時期> 冬休み！！

<募集方法> ・青森県側から声をかける
・ポスター

そこで観光客を少しでも増やそうと思い、私たちはこの政策プランを考えました。それは小中学生向け青森短期留学です。対象とするのは青森とあまり縁や関わりのない生徒です。時期としてはその県の冬休みを予定しています。青森県側から声をかけ、小中学校に募集要項を提示し、ポスターも貼っていただこうと考えています。(6)

7

具体的内容

<期間>

・3泊4日 民泊

<例>

・郷土料理作り体験、雪遊び、青森の観光スポットめぐり、地元の人たちとの交流

<県がすること>

・受け入れてくれる民家を探す。
・お金の補助

では政策プランの具体的な内容を説明します。留学期間は3泊4日です。より青森と触れ合うために民泊がいいかと思っています。民家への問い合わせは県で行います。そして来ていただいた小中学生には、青森留学中、地域にちなんださまざまな体験をしていただこうと思っています。八戸のせん

べい汁、津軽地方のしとぎ餅、下北のけいらんなど郷土料理づくりや雪遊び、青森の観光スポット巡り、地域の人たちとの交流などです。

もちろん地元の方々にも協力していただくのですが、おじいちゃん、おばあちゃんはもちろん、学校ボランティアとして、青森の中高生にも携わってほしいです。そのことによりボランティアとして携わってくれた中高生は社会経験になるし、来てくれた小中学生は同年代の人と触れ合うことで緊張もほぐれ、更に体験に集中できるのではないかと思います。

県に行って欲しいのは、民泊を受け入れてくれる民家への問い合わせと費用の援助です。費用は5～7割を負担してくださるとありがたいです。(7)

政策プランが生み出すメリット

- ・他県の小中学生に青森の伝統や食文化に興味を持ってもらえる。
- ・SNSで短期留学のことを発信することで、多くの若者が青森に興味を示す。
- ・小中学生は普段の生活と違う冬を過ごせる。
- ・家庭の事情で遠出できない小中学生も気軽に参加できる。

政策プランが生み出すメリットは次のようなことがあげられると考えました。冬の青森の魅力が伝わり、留学しているところをSNSで発信し、それを見た多くの若者が「青森っておもしろい、冬の青森、寒いけど行ってみようかな。」と思えるのではないのでしょうか。また、家庭の事情で遠出できない小中学生も気軽に参加できるので、とてもいい経験になると思います。(8)

方言の普及と県の活性化

～おらほの方言が 青森を救う～

石原優花 鳥守咲良
二又未羽 上村香乃

私たちの班のテーマは、「方言の普及と県の活性化～おらほの方言が青森県を救う～」です。(9)

私たちの班では観光の観点から青森県の活性化について調べました。まず、青森県の現状について調べて、その中でも特に改善したい現状を3つピックアップしました。

1つ目は宿泊客においては、県内、県外ともにビジネス目的で青森県を訪れる人が多いということです。これは平成28年青森県観光入込客統計の出席です。

2つ目は青森県の方言・文化などの魅力が知られていないことです。

3つ目は青森県の観光消費額が買い物、お土産にかける費用よりも宿泊費の方が多いことです。(10)

私たちは方言と観光を結びつけることで、青森県の方言や文化をさらに知ってもらうとともに、観光客を呼び込み青森県の経済状況をよりよくしていきたいと思いました。

そこでこの政策プランを考えました。青森の方言の中でも特に津軽弁はなまりが強く、標準語を話す人に通じないこともあります。それを逆手にとってフランス語に聞こえる津軽弁として、車のCMのナレーションに使われるなど、全国にある方言の中でも知名度が高く、全国に「津軽弁を知りたい、学びたい」と思っている人も多くいると思います。また現在は都市との行き来が盛んになり、その地方独自の方言が薄れつつあります。

青森県の現状

- 宿泊客においてはビジネスの目的で青森県に来ている人が多い
- 青森県のみならず、文化などの魅力が知られていない
- 観光客が青森県であまりお金を使わない

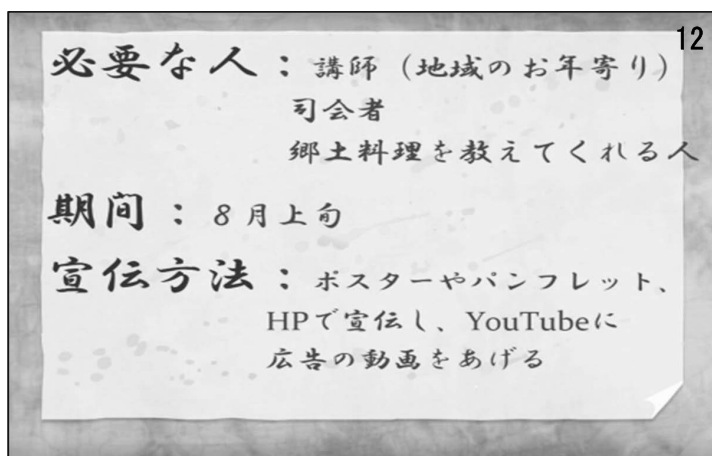
具体的な内容

場所：廃校舎

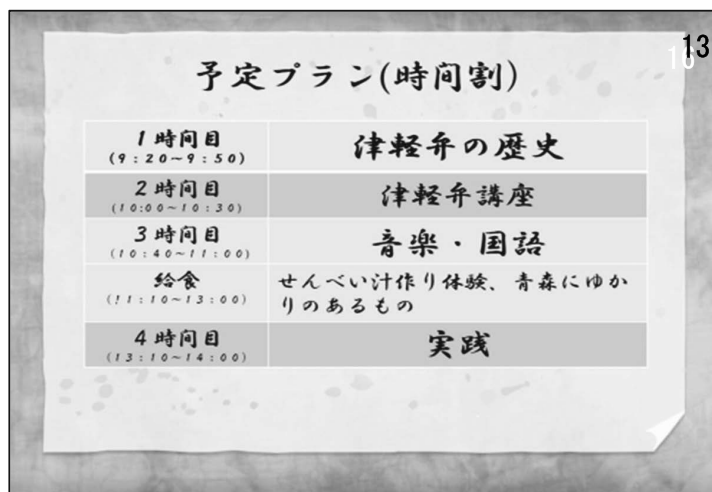
内容：津軽弁を話せるお年寄りの方を募集して津軽弁の授業をする

対象：津軽弁を学びたいと思っている日本人

そこで私たちは何百年も続いてきた歴史のある方言を途絶えさせたくないと思いました。具体的には、廃校舎を利用し、津軽弁を話せるお年寄りの方を講師として募集して、津軽弁の授業を行います。お年寄りの方の力を借りるので活躍の場ができ、生きがいを感じてもらえると思います。対象は津軽弁や青森県について興味がある日本人の方です。(11)



必要な人は講師、司会者、郷土料理の作り方を教えてくれる人です。開催期間は8月上旬を予定しています。宣伝方法はポスターやパンフレット、青森県のホームページでお知らせしたり、Youtube に津軽弁の動画をあげたりします。また、県内に住む方には回覧板でお知らせします。(12)



2015年に廃校となった浅虫中学校をモデルにして考えてみます。浅虫中学校から車で6分程度のところに旅館が集まっている場所があるので、そこにバスを呼び観光客を旅館から中学校まで乗せていきます。中学校に着くとスクリーンにあるような時間割で授業を進めていきます。1時間目は津軽の気候や文化といった津軽弁の歴史を学んでもらいます。2時間目は津軽弁を標準語に訳してみたり、津軽弁のクイズをするなど、実践的な津軽弁講座を行います。3時間目は標準語の歌を津軽弁にして歌ったり、津軽弁の早口言葉をしたりして、津軽弁のおもしろさを体験してもらいます。

そして、給食では青森の郷土料理であるせんべい汁を参加者の方に作ってもらったり、イギリストーストなど青森にゆかりのある食べ物を提供します。最後は、これまでの授業のまとめとして、津軽弁を使ってコミュニケーションをとり買い物をする。その際に原則として津軽弁を使わなければ商品を購入することができません。このねらいは津軽弁を実際に使ってもらうことで、青森県の文化を身近に感じてもらう、また地元の方と触れ合うことで人の温かみに触れてもらうことです。そして、参加者の方にSNSなどで青森県の魅力を発信してもらえるようにお願いします。(13)

問題点として、講師である地域のお年寄りが集まるか、電気や水道管の整備はどうするかなどがあげられます。

メリットとして青森県の方言に興味をもってもらえてよさが広がる、地元の方と観光客が直に触れ合うことができる、お年寄りの力を借りるので、活躍の場ができ生きがいを感じられるということがあげられます。

問題点 メリット

- 講師（地域のお年寄り）、郷土料理を教えてくれる人は集まるか
- 電気や水道管の整備
- 使われなくなったこの校舎を利用するのにか

- 青森県の方言について興味を持ってもらえて、良さが広がる
- 地元の人とふれあいができる
- お年寄りの力を借りる
→活躍の場ができる！
→生き甲斐が感じられる！

農業で町おこし

宮崎まなみ 伊東南海
大山結生 吉田ほの花 尾崎友美

◆青森県の現状

・進学や就職を機に県外を出ることで過疎化

業種	H17	H22	H27
農林業経営体	52,000	45,000	38,000
農業経営体	50,000	42,000	35,000
林業経営体	5,000	4,000	3,000

→ 農業従事者の減少
→ 生産量の減少

◆耕作放棄地の増加

「耕作放棄地の推移」

年度	耕作放棄地 (ha)
H12	7,000
H17	14,000
H22	15,000
H27	17,000

→ 生産量の減少
→ 収入の低下
→ 農業の将来性と魅力の低下

まとめとして、この政策プランをとおして、青森県のもつ田舎・雪国・貧しい・短命といったイメージを払拭して、実際に青森県に来て、直に方言や文化に触れてもらうことで、その参加した人を発信源として青森県のもつ魅力を伝えていって欲しいです。私たちもこの政策プランを考えるにあたって、大好きな青森県の魅力が県外で広まっていくとうれしいです。(14)

私たちの発表テーマは「農業で町おこし」です。私たちは青森県の農業の活性化を促進するために何ができるかを話し合いました。その結果、元受刑者と不登校の学生を対象に農業をきっかけとして社会復帰できる政策を考え出しました。

私たちがこの方々を対象にした理由は、元受刑者や不登校の学生は働く意欲があっても就労が困難な立場になってしまったり、今までの経歴が足かせになってしまったり、働く機会があっても職に就きにくい現状があるからです。この現状を打開できるように、私たちの政策プランをきっかけとして将来的な可能性の場を広げて欲しいと思いました。(15)

まず、青森県の現状について説明します。このグラフは農業従事者の推移を表しています。農業は林業に比べて従事者数をはるかに多いのですが、その分、減少率も高くなっているのが分かります。その原因として進学や就職を機に県外に出ることで過疎化が進んでいるということがあります。それによって農業従事者の減少と生産量の減少がみられます。(16)

続いては耕作放棄地の推移のグラフです。見て分かるように耕作放棄地は年々増加傾向にあります。増加すると生産量の減少や収入の低下、農業の将来性と魅力の低下につながってしまいます。(17)

◆政策プラン

18

- ①県のホームページまたはSNSに、元受刑者や不登校の学生を対象とした募集内容を掲載する
- ②年4回、農業従事者が参加者に農業に関するプレゼンを行う（公民館など）
- ③農家と参加者が連携して農業を行う
 - 空きアパートの貸し出し
 - 農学金制度（生活費を5割ほど負担）
 - 約束事の締結

▼元受刑者の現状

19

- ・出所後、出所者で衣食住がない人
 - 再犯率が高い
- ・刑務所で就職訓練をできる人は一部の人
 - 出所後の対策不足
- ・対人関係の希薄化

衣食住がある人の約3倍！

▼不登校の学生の現状

20

- ・友人関係をめぐる問題
 - ・学業不振
 - ・自分の居場所を感じられない
 - ・自己肯定感の不足
- 学校に行きたくなる

これらの現状を踏まえて私たちが考えた政策プランは、まず、県のホームページまたはSNSに元受刑者や不登校の学生を対象とした募集内容を掲載します。次に春夏秋冬の季節毎に年4回、農業従事者の方に参加者を対象とした農業に関するプレゼンを行っていただきます。主な内容としては、農作業の仕方や農業についてなどです。このうち農家と参加者が連携して、はじめは体験というかたちで農作業を行います。農家に自宅から通うのが困難な場合は、空きアパートを貸し出します。補助として農学金制度という制度をつくり、生活費などの資金を県が5割程負担し、支援します。参加者は農作業のほかにアルバイトなどをして、残りの5割を賄えるようにします。

農業従事者の方々にとってのメリットは、作業人員の確保、生産量の向上などがあげられます。デメリットは農家の方々に参加者に対して不安を持ってしまうことです。そこで農家の方々の理解と安心を得るために、参加者と農業従事者との間でいくつか約束事をつくります。例えば元受刑者には罪の程度によって参加の制限を設ける、農作物は心を込めてつくる、決まり事は必ず守るなどがあります。(18)

ここで、元受刑者の現状について説明したいと思います。元受刑者は出所後に衣食住がない人はある人に比べて約3倍、再犯率が高い傾向にあります。また服役中に刑

務所で職業訓練ができる人は一部しかおらず、このことから出所後の就職対策不足がうかがえます。(19)

続いて不登校の学生についてです。不登校の学生は友人関係をめぐる問題や、学業不振、自分の居場所を感じられない、自己肯定感の不足などの問題を抱えてしまうことで登校する意欲が薄れ、その結果、不登校という現状につながります。(20)

▼農業による心の変化

21

- ・「食」の大切さを理解できる
- ・自然への関心や、環境保全に対する意識の向上
- ・農業の過程を一通りすることで、自己実現の喜びを感じる
- ・社会性やキャリア、仕事に対する意識の向上
- ・感謝の気持ち、命を尊重する気持ちの育成

—「農業体験学習が大学生の自己意識に与える影響」—
居崎時江、谷伊織、小島雅生、ほしの竜一 引用

私たちはこれらの現状を打開するために、農業による心の変化で社会復帰できる政策プランを考えました。農業による心の変化には「食」の大切さを理解できる、自然への関心や環境保全に対する意識の向上、農業の過程を一通りすることで、自己実現の喜びを感じる、社会性やキャリア、仕事に対する意識の向上、感謝の気持ち、命を尊重する気持ちの育成などがあげられ、論文の研究結果としてあげられています。(21)

◆政策プランが生み出すメリット

22

- ・元受刑者や不登校の学生の支援になる
- ・新たな担い手による作業効率の向上
- ・農業の活発化
- ・耕作放棄地の減少に伴う、生産量の増加
- ・農業従事者数の増加と再犯防止

↓
町おこしにつながる！

政策プランとさきほどの論文から導き出されるメリットは、元受刑者や不登校の学生に農業のお手伝いや農業に関する知識をもってもらうことで、農業の新たな担い手の確保や作業効率の向上が可能になることや、心のケア、自己実現の確立が期待できることです。元受刑者や不登校の学生だけでなく、農業に興味のある一般の方々の参加も募集することで、より多くの人たちが農業に興味、関心を持ち農業の活性化につながると思います。これにより農業従事者の減少をストップさせ、耕作放棄地の利用による生産量の増加も促せると思います。これらのメリットは青森県のまちおこしにつながるのではないのでしょうか。この政策プランを実行するために、農家の方々や地域住民の方々のご理解とご協力が必要になります。(22)

◆まとめ

23

- ・農業の担い手の確保で農業従事者の減少を抑える。
- ・農業を拡大させることで、生産量を増大させ青森県の食料自給率を少しでもあげる。
- ・農業の魅力を知ってもらい、農業の将来性を高める

最後にまとめです。農業の担い手の確保で農業従事者の減少を抑える。食料輸入に頼っている現在、農業を拡大することで生産量を増大させ、青森県の食料自給率を少しでもあげる。農業の魅力を知ってもらい、農業の将来性を高める。これらによって農業によるまちおこしが実現可能になると私たちは考えます。(23)

24

全体のまとめ

**青森県のたくさんの魅力を発信するために
私たち高校生ができること・・・**

- 柔軟な発想力と幅広い視点から問題を解決へ導くこと！
- 青森県の未来は私たちが背負っていると自覚すること！
- 考えたことを行動に移すこと！

**今回の活動を通して得た知識を活用して
青森県の活性化に繋がっていきます！！**

25

ご静聴ありがとうございました

これら3つの政策プランを踏まえた全体のまとめです。

青森県のたくさんの魅力を発信するために、私たち高校生ができること、それは柔軟な発想力と幅広い視点から問題を解決へ導くこと、青森県の未来は私たちが背負っていると自覚すること、考えたことを行動に移すことです。そして、私たちは今回の活動をとおして得た知識を活用して、青森県の活性化に繋がっていきます。

(24) (25)

【質 疑】

●^{なるみ}鳴海 ^{けいちろう}惠一郎議員（自由民主党）

（鳴海議員）

課題である雪を何とかしようと、冬を何とかしようという取組、また方言、方言も私は津軽弁ですけれども、皆さんどちらかというとな部弁に近いのですかね。青森県という括りの中でも津軽弁・南部弁、また雪が多い・少ない、いろんな事情がありますけれども、今回の「Proactive action in Aomori」、冬期間の観光客の減少対策として、小中学生向けの短期留学を提案していただきました。小中学生をターゲットにした理由とかねらいは何なのか教えていただければと思います。

（回答）

小中学生をターゲットにした理由は、一番はSNSやテレビのニュースで見た小中学生の保護者の方が、子どもたちといっしょに来る、つまり家族で青森を訪れてくれるというのが一番の理由です。高校生は冬に勉強や部活、また、実業校等では資格の取得など忙しいと思いました。また、青森県にはビジネス目的で来る人たちが多いのですが、観光目的で来る人は少ないというデータがありました。青森短期留学を知った人たちが観光目的で家族で訪れてくれることで、ファミリー層が多く来る青森になり、青森がにぎやかになるのではないかと考えました。

（鳴海議員）

ありがとうございます。家族旅行の目的地だったり、青森県の魅力あるところに訪れてもらう小中学生を対象とする、大変いいターゲットだなと思います。

もう1点質問します。全体のまとめの中に高校生の皆さんができることについてお話していただきました。本県の魅力を発信するために、皆さん自身で具体的に今後こういうことをしていこうという思いがあればお知らせください。

（回答）

私は新しいものを新たにつくり上げるというよりは、青森に受け継がれている、もともとある文化をもっと引き継いでいくべきではないかと思いました。そのため伝統的なお祭りや行事に積極的に参加し、テレビやSNSでもっと青森が取り上げられるように、今より更に盛り上げていけたらいいなと思っています。

（鳴海議員）

とても大事なことだと思います。伝統を受け継ぐという気概を皆さんが持っていることが、間違いなく伝統が継承される、皆さんの取組だと思います。いろんな広報媒体を活用して皆さんが発信しようとする発想というのは、もう県民の声そのものだと思います。是非私も三村知事に皆さんの声を届けて、どちらかという当たり前のことを皆さんがこうするべきだ、それがもしかすると県政ではできていないかもしれない。もっと皆さんに伝わるような県政の仕組みの伝え方というのも我々も一緒になって考えますし、必ず三村知事に届けますので期待していただければと思います。また、皆さんが三村知事までお伝えできなくても、こういった議員を通して、いくらでも声が届くということをしつかりとこの場で気づいて持ち帰っていただければというふうに思います。どうもありがとうございました。

（山口議員）

それでは質問をさせていただきますが、津軽弁講座を活用した青森県の活性化を提案していただいたわけですが、この講座のターゲットはどういう方たちを想定しているのか、またこの講座に参加していただいた方々に、講座終了後にどういったことを期待しているのか、お伺いをいたします。

（回答）

ターゲットは年齢に関係なく津軽弁に興味を持っている、また津軽弁を学びたいと思っている方たちを想定しました。講座終了後に期待していることは、まず、方言を学ぶことで青森を身近に感じてもらうことです。例えば、スーパーで青森県の食品などを見かけた時に、少しでも気に留めてもらえるかもしれません。また浅虫中学校で開催することを想定した場合、近くにサンセットビーチ浅虫や浅虫水族館があり、講座終了後に観光を楽しんでもらうことで、お店などに経済効果をもたらすことを期待しています。

（山口議員）

大変素晴らしいお考えだと思います。この予定プランにあります、イギリストーストというお昼に食べる給食の中にありますけれども、このイギリストーストは私が皆さんと同じくらいの年代の頃のものすごく深く関わっているいろいろ考えて作ったのがイギリストーストでございます。これがもう60年くらい続いている商品になっていますが、皆さんがちょうど今頃考えていることが、もしかすればずっと青森県のこれからの明るい未来を背負っていくようなことになっていくかもしれない、私はそういうふうに感じています。津軽弁と南部弁ということもあります。私の地元の大鰐町は温泉街であります。800年以上の歴史がある温泉街ですが、観光客と地元の人がすれ違う際に、「どさ、ゆさ。」「どこさいくんですか。」「どさ、ゆさ。」「ゆさいく。」これだけでいたい挨拶は終わり。それからもう1つ、ついこの間もテレビに入っていましたけれど、AKB48、このAKBを津軽の人たちはどういうふうに言うかといいますと、「あっちゃ、かっちゃ、ぼっちゃ。」ということになるんですね。言葉が非常に違いますけれども、その言葉を活用して青森県がもっともっと素晴らしい観光地になったり、観光客が来ていただけるようにもう少し考えていきたい、そしてまた皆さんのお考えを活用してまいりたいと考えております。

次に質問ですが農業で町おこしをテーマに、元受刑者や不登校の学生等と農家が連携して農業を行うこと等を提案していただいたが、この提案を実現するためにはどういう課題があるか、実現するためにはどういった工夫が必要か、お伺いをいたします。

（回答）

課題は参加者の受け入れ先を探すことだと思っています。そのためには、予めより多くの農業従事者の方に協力していただけるように声をかけたり、政策プラン、政策内容を理解していただけるようにチラシを配って宣伝したいと思っています。

（山口議員）

ありがとうございました。ただ、これにはいろいろな問題があると思うのです。受刑者の問題、不登校の問題、いろいろありますけれども、皆さんが考えていることをもっと進めながらも、もう一方でスマート農業というものも考えて欲しいと思います。是非調べていただいて一生懸命学んでいただきたい。そういうふうにあります。